

扇の風

松岡隆子

木の洞の昏さ小暑のくらすとも
暑き日のごろごとと石踏みゆけり
合歡咲いて記憶の道のそこらまで
身の幅に満たぬ片蔭花川戸
香水をつけて何処にも行かない日

二三言話し扇の風もらふ
もう少し怠けてゐたし蝉しぐれ
片蔭の夕べの幅となつてきし
星まつり小さき踏切小走りに
さよならの声を涼しと振りかへる
短夜をつかひきつたる眠りかな
眠り足りたる明易の鳥のこゑ